

## 年の始めに



諸塚村長 成崎 孝 孜

明けましておめでとうございます。心から新年のお慶びを申し上げます。先

づは新しい年、平成十六年が平和な中に豊かに活気に満ちたすばらしい年になりますことをお祈りしたいと思います。正月を境にして私共の日々の生活に特段の変化があるわけではありませんが、やはり新年を迎えるということは日本民族の慣わしからでしょうか。何か心新たなるものを感じます。

正月から新しい曆をめくることになるわけですが、現在の太陽曆は一八七二年(明治五年)につくられたものようです。一方旧曆の方は、農耕のために発明されたものといわれ月の満ち欠けを基準としてそれにいくらかの修正を加えたものとされております。月の引力は地球と地球上の生物に大きな影響を与えておりますから天体や自然の動きに合せ、四季の移り変わりの中でそれに順応してゆく生活が必要であったものではないでしょうか。

のといわれ、その準備は正月始めと

いつて十二月の十三日から始められていたらしい。  
♪門松立ててかどことに祝う今日こそ  
楽しけれ♪の歌は今では正月のテレビ番組では松を中心に竹梅エズリ葉、ウラジロなどで飾り立てますが、ずっと昔は松だけだったようで、竹や梅が添えられるようになったのは近世のことのようです。新年に歳神を迎えるとき神が降りたもうところが門松で何故松かということ、門松は神がその木に天降りることを(待つ)ので松になったという。門松はめでたいものというのが通説ですが、少し変わったところでは「門松は冥土の旅の一里塚、めでたくもありめでたくもなし」という一休の狂歌があり、新しい年を迎えるのはめでたいことだが又一つ年を重ねるのはどうも；という現実的なものもあります。

ともあれ正月はやっぱりめでたい。今年こそ、ああほしい、こうもした、こそあつてほしいの夢や希望も大いに結構。大願成就を期待しましょう。繰り返しになりますが、やっぱり平和で明るく豊かな年になりますように初日に「合掌」。

## 謹賀新年



教育長 財部 實

明けましておめでとうございます。皆様お揃いで平成十六年の新春をお迎えになられたことでしょう。皆様方にとって今年もよい年でありますことを念じております。

ところで、昨年は私にとって教育長就任という人生大転換の意義深い年でありました。七月からあつという間の半年でしたし、誠に青天の霹靂の出来事でした。そして、その思いは今でも続いております。日々己を振り返る毎日です。この間、村民の皆様方には温かいご支援、ご協力をいただき大過なく新しい年を迎えさせていただきました。ただただ感謝いたしております。

さて、世界各地では経済不況もさることながら、イラクやアフガニスタンではアメリカ及びその支援国によるテロ撲滅をめぐる血なまぐさい紛争が続いています。万物の霊長たる人間の知恵を働かせて一日も早く世界の平和を取り戻して欲しいものです。

一方、目を国内に転じてみると長引く経済不況の中で政治、経済ともに混迷を深めその改革に日本国中が

大きな悲鳴をあげています。その大改革のまつただ中であつて教育も例外ではなく、教育のあり方に関する改革が進行しております。学習指導要領の改訂では「ゆとり」の中で生きる力を育成する一ことが求められています。平成十四年度から学校週五日制が開始され、家庭・地域での豊かな体験活動や学校における特色ある体験活動に保護者をはじめ多くの地域の方々にご協力をいただいております。また、この改訂により学習時間が以前より削減されたため学力低下を危惧する問題も提起されていますが、村内の小中学校では先生方が力を合わせ、少人数や複式学級の特徴を生かした学習指導方法を工夫・改善し、基礎・基本の力を定着させ、学力向上を図る努力がなされております。

児童生徒への教育の充実には単に学校のみで解決できるものではありません。学校・家庭・地域とが連携しあつてこそ、社会に有能な人材を送り出せるのだと考えます。長くなりましたが、この諸塚村を担つてくれる人材を育成するために村民の皆様方のご協力をお願いします。年頭のご挨拶に代えさせていただきます。今年もよろしくお願いたします。

# 新年のご挨拶



新しい年を迎え村民の皆様方には、希望に満ちた明るい良い年であることを念じます。

自治公民館連絡協議会  
会長 尾形 正夫

諸塚の歴代指導者が書いた本「私の歩いた道」「よみがえる山と村」を最近再度読みました。宮崎県一の貧乏村と悪評であった村が、今日このように他に誇れるすばらしい諸塚村であることは、多くの立派な指導者に恵まれ、村民挙げて一致団結して、すべのことに取り組んだ成果であろう。

我が村は、昔から勤勉な村と言われているようですが、終戦後は特に人づくりが始まり、産業の振興に結びつけたようです。一例をあげますと、このような急峻な山村に農業、林業の振興を図るため、まず道路の開闢や基盤整備に取り組み、少しでも平地での生産に近づける努力がなされ、現在では全国一の路網密度と聞いています。これ等も、公民館活動と深い関係があると思います。行政にお願いすることは、地域公民館

でとりまとめお願いし、行政からの依頼については住民に的確に継ぎ、必要なものは充分な検討を行う、村民と行政が一体となって事に当たるのが、村の発展につながるものと確信します。只今、公民館活動のありかたについて見直し、検討が行われていますが、良いものは残し更に充実させ、時代に即しないものは見直しを行い、すばらしい諸塚流の公民館活動の原点は壊すことなく残し、このように厳しい時であるからこそ地域に合った活動を活発に行い、明るく住みよい村づくりに村民挙げて努力したいものです。以上申し上げまして、挨拶と致します。



## 教育委員の異動 (教育委員会)

この度、村教育委員を勤めていただきました藤本輝子さんが任期により退任されました。2期8年間本村の教育振興にご尽力いただき誠にありがとうございました。



後任には12月18日から堀川千重子さん (七ツ山) が就任されました。今後のご活躍をご期待申し上げます。

このことにより、教育委員の構成は次のようになりました。

職名	氏名	地区名
委員長	菊池 爲時	立岩
職務代理者	岩切 政道	家代
委員	吉永 勝正	南川
委員	堀川千重子	七ツ山
教育長	財部 實	滝ノ下

## 諸塚村婦人会が社会教育優良団体表彰を受賞しました!



今回、諸塚村婦人連絡協議会が宮崎県教育委員会より社会教育優良団体表彰を受けました。

社会教育優良団体表彰は、地域における社会教育の振興に貢献し、顕著な業績を有する社会教育関係団体等に贈られるもので、県婦人会の推薦により、諸塚村婦人会が受賞することになりました。

諸塚村婦人連絡協議会は昭和24年に発足し、平成11年1月には結成50周年を迎えた歴史ある団体です。今回の受賞を機に、会員のみなさんのますますの活躍を期待したいものです。

# 自公連だより

◎第9回目の公民館長会が12月15日午後1時30分から中央公民館で開催されました。協議最初の役場各課、関係機関連絡事項において、

**日土木事務所諸塚駐在所から**  
県への要望があれば館長を通じて12月19日まで、建設課まで要望して下さい。

**東臼杵農林諸塚駐在所から**  
雌鹿の可猟区域についての説明があり、五ヶ瀬町と椎葉村では、本年から雌鹿も3月15日まで捕獲出来るようになりました。諸塚は従来通り雌鹿のみで、猟期も2月15日までであり、諸塚村に逃げ込んでくることも考えられるので、被害があれば早目の有害駆除の申請をしていただきたい。

**企画課から**  
諸塚山山開き20周年記念事業について、平成17年春に20周年となり記念事業としてエッセーと写真の募集を行うので、平成16年9月15日までに応募

していただきたい。  
又、防災行政無線地域放送システム改善について、ほぼ要望通り改善が行われ、平成16年4月頃から運用を始める予定とのことです。

**住民福祉課から**  
諸塚村民生児童委員協議会が厚生大臣表彰を受け、諸塚村社会福祉協議会が全国社会福祉協議会から表彰を受けた報告がありました。

**産業課から**  
FSC(森林認証)への参加を締め切ったが約3千2百ヘクタールで85名程の申込だった。今後は3月を目途に事前審査、16年度に本審査を予定しており、随時参加者の拡大を図りたいとの説明でした。

**教育委員会から**  
成人式が中央公民館で1月3日8時30分から予定されており、40名が成人します。また、女性の集いが1月17日中央公民館で予定されており、多

数の参加をお願いしたいとの説明でした。  
**総務課から**

年末年始の生活安全について、オレオレ詐欺に注意する。悪徳商法に注意する。火気の取扱に注意する。年末年始で飲酒をする機会が多くなるので飲酒運転は絶対しないようにとお願いがありました。次に、森林文化賞奨励賞の推薦を、16年1月16日までお願いしたいとのことです。市町村合併については、この程、地方制度調査会の最終答申が公表されたが、大変厳しいものとなっており、今後については、椎葉村を除いた四村で法定協議会を設置し、任意協議会ではなかった踏み込んだ協議をすることになるとの説明でした。

**次回の館長会は、1月15日(木)です。**  
協議議題にしてほしいことがありましたら、事務局(651-0072)までご連絡下さい。

## 諸塚少年剣道クラブ女子チーム準優勝

「スポーツ合宿のまちづくり」を進めている五ヶ瀬町で、「第一回五ヶ瀬町剣道練成大会」がGパーク公園内五ヶ瀬ドームで開催され、諸塚少年剣道クラブ女子チームが準優勝という快挙を成し遂げました。大会は、少年男子、少年女子、中学生男子、中学生女子の四つのクラスの団体戦で争われ、熊本県や本県の強豪チームが数多く参加し、総勢65チームが各クラスの栄えある第一回大会優勝旗を目指して熱戦を繰り広げました。少年女子の部は10チームで争われ、諸塚少年剣道クラブ女子チームは、予選で新富町の上新田剣道クラブに一本差で勝ち、続く五ヶ瀬町戦も敗れたものの本数差で準決勝に進み、椎葉村の小崎少年剣道クラブに二対一で勝ち、決勝戦に進めました。決勝戦では、またもや鞍岡学心会とあたり善戦したも

の二対二で破れ準優勝となりました。準優勝した諸塚少年剣道クラブ女子チームは次のとおりです。

- 総監督・・甲斐 伸吾
- 監督・・石田 哲司
- 先鋒・・山本 瑠子
- 中堅・・藤本 沙弓
- 大将・・黒木由利子
- 補欠・・山本奈津美

※2月11日に新富町で行われる「座論梅剣道大会」に村内の小学6年生を中心にした男女別の選抜チームが諸塚代表として参加します。皆様の応援をよろしくお願いします。



# 第57回諸塚村駅伝大会

12月7日に青年団主催による諸塚村駅伝大会が開催されました。

今月から青年団の部と一般の部の2部門となり、青年6チーム、一般7チームの13チームの参加がありました。

結果は、青年の部では南川Aチーム、一般の部は諸塚中Aチームが優勝しました。

当日は、風が強く肌寒い



一日となりましたが、沿道には大勢の応援の方が訪れ、大会を盛り上げていただきました。結果は次のとおりです。

### 成績

(青年団の部)

- 優勝…南川A
- 2位…七ツ山
- 3位…黒川

(一般の部)

- 優勝…諸塚中A
- 2位…荒川マスターズ
- 3位…諸塚中B

### 区間賞

(青年団の部)

- 1区…甲斐理恵 (南川A)
- 2区…甲斐幸一 (南川A)
- 3区…甲斐裕朗 (南川A)
- 4区…絹川裕之 (南川A)
- 5区…西田 淳 (南川A)
- 6区…甲斐啓三 (南川A)

(一般の部)

- 1区…尾形 優 (九電)
- 2区…絹川幸喜 (荒川)
- 3区…松村尚樹 (諸中A)
- 4区…黒田大智 (諸中A)
- 5区…西川和成 (諸中A)
- 6区…渡部恵太 (諸中A)

# 「親の背を見て子は育つ」

小原井地区で、繁殖牛40頭を飼育している岩本牧場をご紹介します。

岩本国和さん(52歳)は7年前、繁殖牛10頭、小規模のミニトマト、季節的に従事する森林組作業班の収入等で家計を営んでいましたが、長男が誕生した頃から安定した農業経営と後継者に魅力のある経営基盤づくりを考えるようになり、平成8年に県補助事業を利用して繁殖牛の多頭飼育管理は奥さんの美由紀



(37歳)さんと二人でしていますが、4年前から、我が家で生まれ育成したえびす28号の管理を、長女の法子さん(中1)、次女の尚子さん(小6)、長男の晋乃助くん(小4)、次男の康之介くん(6歳)の4人に任せようとしています。



子供たちは、自分達の牛の世話を任されたことで、牛舎の掃除や給餌の手伝いをするようになりました。ある日、両親がPTAの会合で帰りが遅くなった時、4人で協力して40頭全部の世話をしてくれただけでもあったそうです。

国和さんとしては、4人のうち誰かがこの基盤を継いで欲しいと考えています。

ちなみに、みんなで世話をしているえびす28号の産子、師走号は9月の東白栢都市畜連の主催する共進会において去勢の部2等賞に入賞し、晋乃助くんは子牛の部の調教賞を授与されました。また、師走号は9月の競市で478千

円(税抜き)で販売され、それは全部それぞれの口座に分配して貯金されたそうです。(産業課畜産担当)

こんな独創的な子育てもあるのですね、労働の対価としてお金を得るにはどんな苦労があるかというのを学んでいけるのではないのでしょうか。

(編)





浅田吾朗さん、テルヨさん

つたことが分かります

2軒目は浅田吾朗さんの世帯、奥さんのテルヨさんとお二人です。浅田家は吾朗さんで6代目になるそうです。

父親が村議会議員をされており忙しかったため、早くから家業をまかされ、椎茸栽培と林業を行ってきたそうです。造林に熱心に取り組んでこられ、「60歳までに、必要な椎茸の原木林以外全て人工林にする」という夢を持ち、雨の日も雪の日も休まず仕事を、「じゃから、母ちゃんには苦勞かけとる。」と、ぼつりと言われます。現在では、材価が下がり、若いころ思

い描いた将来との差はあったかも知れませんが、「やつてきたことには本当に誇りを持っていい。」というお言葉に、思わず「師匠！」と呼びたくなりました。

「山の仕事はほんとに面白いし、気持ちが大きくなる。」という言葉にはうらやましい気さえします。

テルヨさんは諸塚短歌会のメンバーで、毎月四季折々の歌を村報紙上で披露頂いている歌人でもあります。(なお短歌では照代さんです。)

子供さんが3人おられ、娘さんとお孫さんが非常に山が好きだそうで、「もしかしたら帰ってきて山のこととするかもしれない。」とおつしやいます。きつと吾朗さんとテルヨさんが山を愛する姿を見て、山が好きにならずにはいられないのではないのでしょうか。

3軒目は奈須厚巳さんの世帯、奥さんのつじ子さん、厚巳さんの母親のカルさんの3人、寒い時期、カルさんは延岡の子供さんの所に行っているようです。お寺にあつた記録が消失したため正確には厚巳さんで何代



奈須厚巳さん、つじ子さん

目になるか分からないようですが、浅敷で最も古くかある家のようです。浅敷では一番高い位置に家が建つていますが、奈須高光さんのお宅のいわゆる元屋になるそうで、分家はどんだんに家を建てていくものだそうです。

厚巳さんは林業労働班の仕事に出たり、朝早くに出られ、帰りが夜の遅い時間になることも多いようです。つじさんは水本建設で働いています。

娘さんが3人おられ、内2人の方が村内に帰ってきておりすばらしい定着率をほこります。

一番多い時で7世帯あつた浅敷地区ですが、昔、地区の始まりに現在と同じ3世帯だつたそうで、それが分家などで増えましたが、また現在の世帯数に落ち着いたという見方もあるようです。ですから松美さんも、「今後は3軒で続いていくだろう。」とおつしやいます。

3. 終わりに

浅敷地区が早くから造林に取り組めたのは一つには水が豊富で米が良く出来て、食べる事に困らなかつた分、力を注ぐことが出来た。ということ松美さんがおつしやいます。その土地がもたらす恩恵が、林業の振興の後押しをしたと言えるかも知れません。かつて黒木勝利村長時代「林木育種研究会」であちこちを視察して杉などの品種を研究し、どんなものが今求められるのかを考えたそうですが、現在は、どんな椎茸を消費者が欲しているかというのを常に考えておられるそうです。高光さんが「自分の作ったものを売ってみるとよく分かる。」とおつしやいましたが、精魂

込めて作ったものを直接消費者が届けることで様々な反応がありそれにより分かってくる事が多くあるようです。高光さんもそれにより安心できる良いものをお客さんに届けたたいという強い気持ちを持つておられるようです。

松美さんが、「調べればきつと諸塚に適した作物が何かあるはずだ、ただしやろうと思つたら本気で取り組まんとだめだ。」とおつしやいましたが、諸塚の将来を思うからこそその言葉だと感じました。



奈須牙子さんに頂いたお飾り

山と共に生活し、自然の恩恵を感じ、おおらかな気持ちで生活する浅敷地区の人々に接し、今回も諸塚の良さを見ることができました。